

裁判員等経験者との意見交換会（令和7年10月24日開催）

冒頭陳述・審理日程で専門家証人（医師、その他）の尋問があった事件を担当した裁判員等経験者の方



Aさん

- ・職場に裁判員休暇制度があったので周囲の理解を得やすかった。職務内容は事前にパンフレットを読んで理解していた。
- ・役割を果たすことができた達成感があった。
- ・周囲に裁判員経験者が少なく、認知度が低いと思う。

Bさん

- ・訴訟関係人が丁寧に事件に向き合っていることが分かった。
- ・専門用語が多く大変であったが、イラスト等を用いた感染経路の説明は分かりやすかった。落ち着いて参加することができた。
- ・ニュース等でも量刑が気になることが多くなり、裁判に興味を持つことができた。

Cさん

- ・補充裁判員として参加し、どうしても遺族側の感情に傾くことがあったが、議論する中で反対側から物事を見ることも重要であることに気づき、大きな学びとなった。
- ・精神状態の理解が難しかったが、評議をするうちに理解することができた。
- ・裁判のニュース対して、特に量刑に興味を持つようになった。

Dさん

- ・ディスカッションが不得意で、自分の意見を言うタイプではなかったが、裁判員を経験することで、意見を言えるようになった。
- ・自分の性格が変わったような気がして、人生を変えた出来事と言えるくらい大きなメリットがあった。

Eさん

- ・論告や弁論はまとまったものであり理解しやすかった。
- ・評議では忌憚のない意見を言い合うことができた。他の裁判員の方の視点にも気づくことができ、自分が成長していることを感じることもできた。

司会裁判官からひとこと



専門家を尋問する裁判について

イラスト等を用いて分かりやすかった、裁判員からも専門家に尋問することができた、後で話し合ううちに理解が深まったという感想を頂きました。もっと分かりやすくなるよう工夫してまいります。

裁判員等になるメリットについて



裁判への関心が高まっただけでなく、達成感や自己の成長など、とても意義のある受け止めをされていました。様々な方と議論できる場で、得られる経験は大きいと気づかれました。

ご参加の皆さま、ありがとうございました。